

メカとエレクトロニクス 2

工学部 機械知能工学科

熊谷 正 朗

kumagai@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

東北学院大学工学部
ロボット開発工学研究室 RDE

今回の到達目標

○メカトロシステムの実体化・現実化

- ◇この科目の概要と方針
- ◇メカの部分と同様に、**原理に基づく計算**があることを理解できる。
- ◇メカトロシステムにおける**具体的な数値の目安**を理解できる。

○プチテスト(復習確認)

科目の到達目標 (総合@シラバス)

○到達目標＝評価の基準

- ◇メカトロニクスで用いる最低限の**センサ回路の構成を検討**できる
- ◇**モータ類の制御回路**の構成を理解し、その**効率や損失**について考慮することができる
- ◇**信号のデジタルによる扱い**の基礎を理解し、コンピュータへの**取り込み手段**を検討できる
→全般に**具体的な数値や設計**も扱う
※工学総合演習Ⅱとも関連

評価基準

○100点の構成

- ◇50点:定期試験
 - ・計算問題と論述問題を予定
- ◇50点:平常点
 - ・20点:講義中のプチテスト
 - ・20点:レポート(主に調査系宿題)
 - ・10点:講義の**ノート**のチェック
- ◇+α

評価基準:講義のノートのチェック

○講義への取り組みを確認

↓単なる板書の
写しにあらず

- ◇講義中にちゃんとノートをとっているか
 - ・10点:毎回十分にノートを取れている
 - ・0点:さっぱりノートをとっていない
 - ・1月上旬に実施の予定
- ◇そのためのノートの形式
 - ・明確に**何回目のノート**が分かるように
 - ・ノートは「**まとめ**」ではない。
 - ・不正行為発覚時は定期試験**受験拒否**

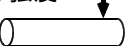
受講上の注意点:単位の実質化

○復習&予習の明確な証拠の提出

- ◇具体的な内容
復習:毎回、授業中に出てきた図のなかから**重要なものを3点**を選び、その図を**綺麗に書く**とともに、**説明**をつける。(90分)
予習:シラバスに応じた事前確認など
- ◇提出方法
 - ・専用用紙で、翌講義の**開始時刻まで**
 - ・提出は**任意(強く推奨)** 提出の**特典あり**

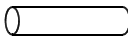
機械工学における 式 と 選択 と 数値

○設計する＝**方式と数値**(と配置)を決める

- ◇目的の分解・理解、**適用する原理の選定**
 - ・例:軸の太さを決める → 材力、強度 ↓
- ◇**条件**を明確にする 
 - ・例:荷重、他の条件による太さ上限
- ◇**方式検討と選択**
 - ・例:軸の構造、軸の材質
- ◇**数値の決定**
 - ・使う式 → 計算 → 評価 → 決定

機械工学における 式 と 選択 と 数値

○設計する＝**方式と数値**を決める

- ◇重要ポイント
 - ・適用する**式の選択** (←知識)
 - ・**計算した数値の妥当性**／常識との適合
- ◇**数値の妥当性** 
 - ・計算しておわり、ではない。
 - ・その**数値をもとに実体化**できるかどうか。
→妥当性の判断は最終的には経験から

メカトロにおける 式 と 選択 と 数値

○機械の数値＋電気の数値

- ◇機械関係:略
- ◇電気関係の例
 - ・各部の信号の電圧変化(振幅) ←仕様
 - ・どの周波数まで扱うか(帯域) ←仕様
 - ・モータに流す電流、必要な電圧
←モータの特性式、必要な電力
 - ・増幅回路の定数決定
←回路ごとの特性式、オームの法則

メカトロにおける 式 と 選択 と 数値

○機械と電気の接点:電力＝仕事率、熱

- ◇共通の単位:[W][J]
 - ・機械:[kg][m]/[s²] [m] = [J]、[J/s]=[W]
 - ・電気:[V] [A] = [W] ※交流では若干複雑
※[V]=[kg][m²]/[s³]/[A]=[W/A]
- ◇設計におけるつながり
 - ・機械的に必要な動力(仕事率)[W]
⇔モータ等の効率>⇔ 必要な電力[W]
 - ・消費電力[W] ⇒ 時間あたりの熱[W=J/s]

メカトロニクスの数値

○「妥当な」数値感覚

◇電圧

- 歪みゲージ→ ∼ 1[mV] 微弱、扱い注意、要ノイズ対策
- ありがち→ ∼100[mV] 小さい、扱い注意、センサ信号
- 土の場合→ ∼ 10[V] 電子回路で一般的
- 3.3や5が増→ ∼ 2,30[V] エネルギーとしての電気
- 電流次第で→ ∼ 2,30[V] エネルギーとしての電気
- 死の危険→ ∼ 200[V] 同上、感電注意、大事故注意
- ・ ∼ 同上、プロ以外近づくな
- ※静電気など、低エネルギー大電圧もある

メカトロニクスの数値

○「妥当な」数値感覚

◇電流

- ありがち→ ∼1[μA] 微弱、扱いに要注意、ノイズ対策
※1[V]で1[MΩ]だと1[μA]
- センサ系→ ∼1[mA] 小さい、センサ回路などは普通
- 回路の電流 → ∼100[mA] 信号系回路の消費電流、LED
- 信号と → ∼ 1[A] 小型のアクチュエータ、電源等
- エネの境界 → ∼ 10[A] 並み～大きめのアクチュエータ
- 配線の太さが → ∼ 10[A] 並み～大きめのアクチュエータ
- 要チェック → ∼ 10[A] 並み～大きめのアクチュエータ
- 電線の発熱→ ∼ 10[A] ∼ 気を使うべき大電流

メカトロニクスの数値

○「妥当な」数値感覚

※電波の出力でも
[mW]など見かける

◇電力／動力(エネルギー)

- 省電力機器→ ∼ [mW] 気にしない(計算もしない)
- は気にする
- 5V × 0.2A = 1W → ∼ 1[W] 処理系の回路の消費電力
- ・ ∼ 10[W] 小型のモータ類
- 10V, 10A = 100W
25V, 4A = 100W
50V, 2A = 100W
・ ∼ 100[W] 手頃な大きめのモータ類
- ※熊研2脚: 定格80[W]、トレーラ: 110[W]
- 電圧か電流が → 100[W] ∼ 大型、要さまざまな配慮
- 危険な領域に
- ※家庭の電化製品は何[W]?

メカトロニクスの数値

○「妥当な」数値感覚

◇抵抗

- 10A流れると→ ∼ 10[mΩ] 配線の抵抗: 大電流時に重要
- 1Wの消費 スイッチの抵抗、MOSFETのオン抵抗
- 電圧→電圧 → ∼100[mΩ] 電流計測用抵抗
- 100mΩ :
1A→0.1V
・ ∼100[Ω] 実用上あまりみられず
- ありがち: 330Ω, 470Ω → ∼ 1[kΩ] LEDの電流を制限する抵抗
- 10k～100kが主 → ∼ 1[MΩ] センサ回路などでよく使われる
- 一般的な回路で → ∼ 入力抵抗、絶縁抵抗(部品として使わず
- 電流小さすぎ

メカトロニクスの数値

○「妥当な」数値感覚

◇コンデンサ

- ・[pF]: センサ回路 [μF]: 電源用 [F]: 蓄電用

◇コイル

- ・[mH]近辺 モータ等のインダクタンス

◇熱／消費電力

1[kW]

- ・ストーブ、電熱器、オーブン 300[W], 600[W]
- ・電子レンジ 1[kW] ∼ 掃除機 数百[W]
- ・ハンダごて 20[W]前後 人間 100[W]

この科目の今後の方向性

○メカトロの主要回路要素と周辺の理解

◇メカ設計は他の科目で

◇センサ周りの回路の理解

- ・処理そのものへの理解
- ・回路の読み方、理解の仕方

◇モータ制御回路への理解

- ・エネルギーとしての電力、メカトロの中核

◇アナログとデジタル(AD変換)

- ・センサ→コンピュータまで